

## 2019年度「CEO 認定書」授与式を9月28日に経団連会館にて開催



2019年度「CEO 認定書」を授与された皆さん

一般社団法人サーキュラーエコノミー推進機構（CEO: Circular Economy Organization）は、すべての産業を横断して、データがビジネスを変えていく中で、真のデータサイエンティストの育成が日本では進んでいなく、これは日本の産業界の危機であるとの考えのもと、2018年3月に産学連携して、優秀なデータサイエンティスト人財育成の基盤を設立したもので、「CEO 認定書」は、CEO 理事会員企業でCEO プログラム研修を受け、研修成果及び人物等の総合的な評価をもとに選ばれた研修生に授与するもので、2019年度は19名が選ばれた。

CEO 認定書授与式は、午前10時30分から、「CEO 認定書」授与者、理事会員、大学・研究機関関係者、来賓およびCEO 役員出席のもと経団連会館の会場とオンラインによるライブ配信のハイブリッドで開催された。

## CEO 代表挨拶 望月晴文 CEO 理事長



「本日は、アカデミアンや、トップのデータサイエンティスト、あるいはデータ、デジタルについて詳しい皆様にご出席ですので、CEOの意義をお話しするのではなく、一言だけ、2年半前にお引き受けした時の思いをお話したいと思う。

すべての業界の事業についてデータというものが非常に大切になり、そこが競争力のもとになる。そこで一番肝のデータサイエンティストを何とかしなければいけないが、諸外国と比べると、特に米国であるとかそういう国々と比べると、日本はそこまで到達していない。大学には優秀なデータサイエンティストもその卵も沢山いる一方で、大学にはデータがそんなに蓄積されているわけではない。企業にはデータが山ほどあるけれども、それを活用しなければいけない人材が揃っていない。そこになんとか短期間で人材を供給・訓練し育ていくエコシステムを作ることが世にとっても喫緊の課題であり競争力のもとであるということで、その仕組みをつくらうとスタートした。

時々大切なことがあると、組織だけつくとやったような気がするというのは、デジタル庁ができるということもそのようなものだと思うのではないが、やらないといけないことは目の前に沢山あって、非常に鮮明にあって、それをやるためにどういうものを作ったら良いかということをやった。

お陰様でこの2年の間に2回目のCEOの認定式を迎えることができ、この日を迎えられたことを嬉しく思う。今日は認定される方々の旅立ちをお祝いしようという気持ちで進めさせていただけたらと思う。皆様、今日はお集まりいただきありがとうございますございました。」

### 来賓祝辞 糟谷敏秀氏（特許庁長官）



「コロナ禍においても、この2年目の活動を着実に進めてこられたCEO推進機構の関係の皆様方にも心から敬意を表させていただきます。しばらく前はsoftware is everythingと言われていたが、データが価値の源泉だと言われるようになってから、もう何年も経つ。日本には素晴らしいリアルデータがあるんだと言われて、これまた数年経つ。ただ、この数年間を振り返ると、いったい何がどれだけ進んだのか。他方で、デジタル庁をめぐる議論の中で日本のIT化が遅れていると言われてのを見るにつけ、また同じことが、このデータの活用をめぐる繰り返されることがないかどうか本当に心配でならない。

特にコロナの状況下において、日本国内はなんとなくまったりとした雰囲気があるように感じる。コロナが終わった後にはっと気がついてみると引き離されたということにならないように、気を引き締めてやっていく必要があるように思う。

データがすべてだと言われる中で、この機構の活動によって、去年の授与式で素晴らしいなと思ったのは、大学の文理に関係なくそういう人材が増えていくという兆しを感じて心から嬉しく思った次第である。

いずれにしても、データをうまく使って、この国の生産性を上げる。生産性を上げるということはもう随分やり尽くしたように感じるかもしれないが、この間AIを使ってある食品工場の省エネをやったら3割削減できた。やっている、やっていると言ってもまだ全然できていないことがあることを実感した。コストの節減でもそうだが、今後本当に大事なものは、データを使って新たな付加価値を生みだしていくということだろう。

あまり知られていないけれども、日本ではAIのアルゴリズムについて特許が取れるので、皆様良い発明をされた際には特許を取得していただいて、この国の競争力、富を生み出す将来に向けた、我々の孫達のために富を生み出す活動に力を入れて頂きたいと思う。」

### CEO認定書の授与



CEO認定書授与者19名の名前が呼ばれ、理事長より認定書が手渡された。

**お祝いの言葉 梶田隆章氏（ノーベル物理学賞受賞者 東京大学特別栄誉教授  
宇宙船研究所長）**



「先ず、本日 CEO 認定証を授与された方々、おめでとうございます。皆さんが今後、データサイエンティストとして社会の色々なところで活躍されることを期待している。

この場をお借りして、大学人として一言申し上げたいと思う。近年の日本の高等教育の問題に、大学院、特に博士課程に進む学生の急激な減少がある。これには色々な理由があると思うが、一つには博士号取得者の評価や待遇が諸外国に比べて低いというのがある。今はそんなことはないと思うが、我々が若かった頃は、専門バカで役に立たないなどという評価を受けたと聞いている。

しかし、時代が変わり大学院教育も変わっている。そして何より本日認定された 19 名の皆さんは、社会が求める能力を持って本当に社会の第一線でご活躍することが期待されている。皆さんがロールモデルとなって、日本の社会を、日本の高等教育に対する古いイメージを変える核となっていくことを真に期待している。本日は誠にありがとうございました。」

**プレゼン I 2019 年度認定書授与者を代表して**

**長田拓郎さん（東京大学大学院医学系研究科  
研修先：第一生命保険㈱）**



**テーマ：「CEO プログラム最終報告会」**

プログラム研修として取り組んだ「お客様の健康をサポートする新商品の開発」と「提携商品と営業職員の関係分析」についてその内容と成果が報告された。

**アドバイザーボードを代表して 中尾 彰宏氏（東京大学総長補佐**

**東京大学大学院情報学環/副学環長）**



「私が学生の頃にこのようなプログラムがあったらどうだったかと一瞬考えた。残念ながら私が若かった頃は、このような、産業界の実際のデータを使わせていただくようなプログラムはなかった。認定書授与者を代表してプレゼンをした長田さんのお話の中で、専門のリアルデータを使うようなところでも、ビジネスの関係ではまだまだやることがあったと、それからデータの意味づけを考えたいというコメントが最後にあり、非常に重要なことだと思った。

冒頭で理事長の望月先生から、デジタル庁のお話があったが、データ、AI に関するトップダウン直轄型のいろいろな動きが出てきたなと思う。

大学総長がいくつか改革をしていて、その一つに、海外では当たり前なのだが、大学債を東京大学が日本で初めて発行しようとしている。ケンブリッジ大学なんかは 1000 億円の大

学債を40年債の長期債権として発行している。我々も最初は200億だが、これをどのようにいかしていくかが宿題として出ている。

情報学環においては、部局ごとに大学債を使って将来やりたいことを考えなさいという宿題が出た。私から申し上げた答えは、やっぱり人材育成。40年後に私は現役ではない。今二十代の学生が40年後に日本を背負って立っていくための人材育成に、企業からいただいた大学債を活かしていきたいということを考えた。

そういう観点でみるとCEOは最先端を走っている。産業界の生のデータを使って、大学と学生さんがそれを使ったビジネス提案までやっている。実際の業務に使えることをやっているというのは非常に意味があることだと思う。

今日改めて、19名の、授与された学生さんを見て、この人材育成の重要性を実感した。是非このプログラムを活用されて、みなさんの後輩も含めて、データサイエンティストが育っていけると良いなあというように思う。」

## プレゼンⅡ 一期生「活躍の様子」 2018年度認定書授与者を代表して



張 瀚天さん(アクセンチュア(株)ビジネスコンサルティング本部  
AI グループアナリスト  
筑波大学大学院システム情報工学研究科卒)

テーマ：「CEOプログラムでの学びと就職後の業務紹介」

アクセンチュアで、2018年度CEOプログラム研修を受け、2018年度「CEO認定書」を授与される。その後、統計分析コンペティションで総務大臣賞を受賞されるなどの実績を上げ、今年の春に筑波大学大学院システム情報工学研究科を卒業、研修先であるアクセンチュアに就職。

現在、アクセンチュアのAI日本統括の直属でAIグループアナリストとして活躍している。CEOプログラムを通じて何を学んだかを振り返るとともに、就職してデータサイエンティストとしての活動内容と学びについてプレゼンをした。

## 理事会員を代表して 江川昌史氏（アクセンチュア株式会社 代表取締役社長）



「私共アクセンチュアは、3~4年前にCEOの話聞いた時になんとか貢献したいなということで、立ち上げの頃から色々活動してきた。

会社自体は全世界に50万人にいたるコンサルティング会社で、そのうち1万人ほどのデータサイエンティストを有している。また、なんらかの形でデータの分析等々をしている人間は10万人ほどいる。そのような中で、我々は日頃、企業の特に難しい分野から簡単な分野までAIをどのように入れていくかということをやっている。難しい分野だと医学や創薬の分野。簡単どころだとマーケティング。中間的どころだとサプライチェーン。様々な分野に適用させていただいている。

そのような中で、企業向けでないところまでAIが広がってきた。それは一次産業。我々は地方創生のプログラムも担当することがあるが、その関係で地方に行くことがある。漁業や農業の分野でAIを活用出来ないかという話が出てくる。気仙沼の方とお話した時は、漁

業で儲かる仕組みというのは、ガソリンのセーブにかかっている、これに利益率が影響してくる。これをセーブするためには、例えばどれだけ早く魚をとれるところに到達できるか、そこでどれだけ魚をとれるか、もしくは大漁になると港に引き返すが、この時にどれくらいのスピードで無駄なくどの港につけば一番燃費に無駄がないか、こう言った問いに答えられると、実は漁業全体が儲かるようになるということがわかった。

同じようなことが農業でもある。AI が企業の活動だけでなく、一次産業とかまで浸透していき、日本全体の生産性の底上げが図れば良いし、それをやっていこうと思ったときの一つの課題は、日本の場合データが割とクローズな環境にあるので、これをどれだけオープンなもので、クラウドの環境に置いて、色々な人が活用できるような状況にするかも一つの課題。

私共アクセンチュアもそういったところに貢献していきたいし、今回認定された皆様も一緒に日本の生産性を上げるようなことができれば良いなというふうに思う。」

## 閉会

### 進行役 宮内淑子専務理事



「CEO 認定書を授与された方々は、今後、CEO Leaders member となり、CEO としては更なる活躍への支援をしていく。

日本の未来を拓くトップデータサイエンティストとして、活躍を期待できる人財が育つよう、皆様の更なるお力添えを引き続き宜しくお願いしたい。」